

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000247		
法人名	社会福祉法人 山輝会		
事業所名	グループホーム プリランテ明石		
所在地	兵庫県明石市北王子町13-41		
自己評価作成日	2017/1/9	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2017年 1月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の持てる力を活用し、笑顔で生活して頂けるように努めています。また、明石西公園が隣接されていることから毎朝の散歩では公園の景色を楽しむことも大切にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事は普通の家と同じように材料の買い出しから入居者様と一緒に作り、一緒に作り、パートナーと一緒に食べています。 ・毎朝の散歩を日課として取り入れ、体力の向上、閉じこもりの防止に努めています。 ・日々の様子をブログで発信し、ご家族等に入居者様の表情を見て頂けるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は開設後5年目を迎え、地域との触れ合いが少しずつ成果を上げつつある。壁に架けられた絵画、暖炉の有る広いリビング、高い天井と梁、お茶会が楽しめるテラスなど、事業所の雰囲気にグレードの高さを感じる。職員は、利用者の笑顔が溢れ、居心地の良い事業所を目指しており、利用者は、食事が終わった後も挽きたてのコーヒ豆の香りが漂うリビングに残って、楽しく談笑している。事業所を訪れる家族は、張り出された職員の大きな顔写真と名前によって信頼と親近感を感じ、沢山のスナップ写真で利用者の日々の暮らしを知ることが出来る。全職員が全ての利用者のケアを担当する体制を採り、2つのユニットを毎日交互に勤務する事で、事業所として標準化されたケアを実践している。今後とも、地域の福祉資源として更に輝きを増されるよう期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パートナー(職員)が、理念を常に意識出来るよう、事業所内の目に付く場所に貼りだしている。また、法人内の事業計画にも落とし込み、理念の実現に向けて取り組んでいる。面談時にも理念を共有するようにしている。	「自立、敬愛、共生」という理念の他に、内容を更に具体化した「職員心得10ヶ条」があり、職員目の目に付く所に掲示して、周知に努めている。心得の内の1・2項目を毎月選んで具体的な努力目標とし、成果のレビューも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園での昼食会の参加や近隣の公園へ散歩に行くことで地域の方々とも顔見知りとなってきた。	近隣の幼稚園を訪問し、園児と一緒に昼食会を楽しんだり、公園でのラジオ体操や散歩などで地区住民と触れ合っている。トライやるウィークでは、利用者が中学生と話す機会を設けている。事業所の夏祭りは利用者と家族で満席となり、近隣からの参加は実現できていない。	夏祭りに、地区の住民を招待する時間帯を設けるなどの企画で、触れ合う機会を作られたらどうであろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や地域の幼稚園の人権学習の講師として参加している。法人としてカフェやコミセンにてサロンを開催している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの報告を行うとともに、委員より頂いた意見を定例会議で報告し、サービスに反映している。また、改善点については話し合うことでサービス向上に繋げるようにしている。	隔月に開催しており、議事録を全家族に送付することを始めた。市の担当部署と地域包括からの出席は無いが、利用者と家族、地区住民代表や民生委員が参加しており、会議の後の食事会も有って、有意義なアドバイスを得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点などがあれば、市の担当者に確認しながら進めている。 市からの介護相談員の訪問や地域のケアマネジャーとの連携をとるようにしている。	地区の事業所連絡会が3ヶ月に一度開催されており、研修や情報交換に役立っている。市の担当部署との関係性は、法人窓口に乗っている状況であり、事業所として顔なじみに成るまでには至っていない。	事業所としても市を訪問する機会をつくることで、より協力関係が深まるのではないだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は9時から18時は開錠しセンサーで出入りが確認出来るようにしている。 夜間は玄関の施錠をしている。	日中の玄関開錠、自由なエレベータの乗降など、拘束のない事業所を実現している。センサーマットは準備しているが使用しない方針で、拘束排除とそのリスクについて、家族に説明し納得を得ている。職員研修を毎年行い、事業所の方針を周知させている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職者に対しては、法人として虐待防止に関する研修を行っている。部署内研修でも行い不適切ケアについて話し合う機会を持っている。(8月)また、普段から面談を行いストレスについて吐き出せるようにしている。	心理的虐待にならない様に、利用者への呼び掛け方、声のトーン、スピーチロックには特に注意している。食事中も利用者のペースを大切に、下膳を急ぐことはしない。職員のストレスチェックには、法人の産業医が対応し、管理者も時間を割くなど面談している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行った。(10月)	成年後見制度を利用している利用者があるが、参考事例とはなっていない。職員が制度について学べる研修を、毎年継続していく予定である。利用者と家族には、必要性を見ながら資料を渡して説明している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談時や契約書及び重要事項説明書、金銭にかかる同意書の説明を個別に行い、疑問点がなくなってから契約をしている。入居後に出た疑問点も、その都度、説明させて頂いている。	入居希望者には事前の見学を薦め、見学時に申込書を渡して説明をしている。居室が空いていれば、体験入居も可能としている。重度化した場合や看取りに関する質問が多いが、事業所の体制で医療的な支援には限度があることと、必要に応じた対応について説明し、納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より頂いた意見は申し送りや会議の議題にあげるようにしている。またケアプラン更新時にはご家族と話し合うかアンケートを頂くようにしている。在宅の時のケアマネジャーと繋がりを継続されている方もいる。	家族が来訪する機会に、意見を聴くことが多い。殆どが個々のケアに関する事柄であるが、カラオケ機器の準備など、事業所の方針に照らして出来る範囲で実現させている。利用者や家族向けの満足度調査の実施は、今後の検討課題である。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では事前に議題を配りその他の検討事項があればメモをもらって会議を行っている。日頃から現場の声を聞くようにしている。	毎月1回、約1時間の職員会議の中で、職員の意見を聴いている。内容によっては、毎月開催される法人の運営会議に上げる。今年度から新人事考課制度が始まり、法人共通の30項目について職員が自己評価し、面談の中で希望や意見を聴くこととなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課制度を導入し、個々のパートナーの日々の働きぶりや、目標に対する取り組みや結果を給与や賞与に反映している。業務内容については会議での意見を取り入れるなどやりがいには繋がる事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体研修や個人のレベルに応じた外部研修の参加、内部研修を実施している。学ぶ機会を頂き向上心に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市内のグループホーム部会に加入しており、責任者は定例会に参加している。研修に行くことで横の繋がりが出来ている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を訴えられる時はゆっくり話を聞く事が出来ている。各職員はご本人にとってより良い環境となるよう考え努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの希望や要望は出来るだけ取り入れている。受診も基本的にはご家族に任せているがどうしても無理な時はお手伝いさせて頂いている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学の際には、その方の現状を聞かせて頂き、法人内のサービスだけでなく、他法人のサービスもご紹介させて頂いている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	状態によって異なるが出来る事はして頂くようにしている。無理強いはいないようにご本人を尊重するようにしている。 (掃除、洗濯、調理、余暇活動)		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加できる行事を実施したり、2か月に1度、様子を伝える手紙をお送りしている。また、小さなことでもご家族に相談させて頂き、共にご本人を支えていく関係となるよう努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの美容院や病院に継続して通われている方もいる。	家族・友人との継続的なふれあいを支援している。「母の日・父の日」合同イベントをホテルで開催し、ほとんどの家族が参加して、利用者は孫やひ孫と一緒に食事を楽しんだ。餅つきには家族も参加して、利用者と一緒にまるめた餅を味わった。利用者同士も友達になって、一緒にカラオケやゲームに興じている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で過ごすことを好まれる方もいますが相性を考慮しながら入居者様同士が関わる事が出来る様に努めている。 余暇活動や散歩の参加率は高い。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られても面会に行く等出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりやカンファレンス等ではしっかりとご本人主体で考えることが出来ている。	コミュニケーションが難しい利用者は、表情などから意向を汲み取るようにしている。食事の前後の手伝い、職員と一緒に掃除、大衆演劇を楽しむ時の表情、畑での土いじり、習字のテーマ、イベントを楽しむ様子など、意向を汲み取る多くの機会を活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族だけでなく、会いに来て下さるご友人からも昔のことをお聞きし、ケアする上でのヒントとしている。また、アセスメントシートも新たな情報を書き足し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	掃除、洗濯、調理、余暇活動をしながら得意な分野、出来ないところを見極め日々の変化を注意深く観察し記録するように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、パートナーの意見はプランに反映しているが、その他の関係者の意見までは取り入れられていない。ICFの考え方も取り入れながらプラン作成を行っている。	利用者毎の主担当を決めているが、担当するユニットも日々変わり、全員が全利用者をケアする体制である。全員が、ケース記録と管理日誌及び受診情報の内容を共有している。主担当者によるモニタリングと家族の希望をケアマネがまとめ、利用者も参加する担当者会議を経て、年1回の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、管理日誌、チェック表を元に申し送り共有している。 会議では状態について話し合い主治医に相談する事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や畑仕事など可能な限りニーズに合わせて対応している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりはまだ少ないが、毎日の散歩や行きつけのスーパーでの顔見知りが出てきている。その他、行きつけの美容院や病院に引き続き行かれている方もおられる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力も得ながらほとんどの方が、入居前からのかかりつけ医に引き続き診てもらっている。ただし、ご家族の状況によっては、往診の依頼や通院の支援も行っている。	これまでのかかりつけ医の受診継続を支援している。往診対応もあるが、基本家族が付き添い、やむをえない場合は職員が付き添う。受診時は家族に日々の記録を渡し口頭でも伝え、職員が同行することもある。毎月定期的に口腔ケアを行い、希望で歯科往診が利用できる。皮膚科や心療内科等の往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パートナーがとらえた情報や気付きは受診に付き添われるご家族や往診の医師にお伝えしている。また、傷の処置などであれば法人内特養の看護師の協力も得られている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との情報共有や協力病院である借生病院の医療安全管理室との関係作りを行っている。	利用者、家族の意向を優先し、状態変化を早期に見極めできるだけ入院回避に努めている。入院時も、かかりつけ医と協力医療機関と密な情報交換、連携により、早期退院につなげている。職員は利用者、家族が安心して治療できるよう見舞い、こまめに声かけしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合に備えて、法人内に特養がありお申込み頂けることはお伝えしている。また、看取り介護は実施しない方針を明確にしており、ご家族に対しても文書を使い説明している。	契約時に事業所の方針を説明し、納得を得ており、緊急時対応についての家族の意向も確認している。利用者の入院等による状態低下時は、早めに今後の対応、受け入れ施設等についての相談を行っている。利用者、家族の不安をできるだけ無くすよう心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し努めている。 今年度は市民救命士の研修に1名参加した。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を実施している。また、万が一、火災などが発生した場合には同一敷地内の特養と協力する体制をとっている。 地域の協力体制は築けていない。	施設全体で、年2回の合同訓練(夜間想定含む)を実施している。災害マニュアルを基に、施設全体で職員、利用者による避難経路の確認、事業所間の協力体制の確認を行っている。今後は、福祉避難所の指定についての検討を考えている。近隣との協力体制が課題である。	福祉避難所の指定への検討を機に、地域と良好な関係性を築ききっかけとしたい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員心得10ヶ条を毎月1~2項目を強化月間とし意識するようにし定例会議で振り返っている。	会議で不適切ケアについての検討をする中で、利用者一人ひとりへの声かけや関わり方について、見直しを図っている。時に、職員の意識が薄れる場合には、常に人に見られているという姿勢を持ち続けるよう働きかけ、意識統一に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても可能な限り入居者様に選択して頂くようにしている。また、イベントや入浴なども、無理強いはせずご本人が「したい」と思う声かけを工夫したり、タイミングを見計らうよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝など一律に時間は決めず、お一人おひとりのペースで過ごして頂けるように支援している。昼夜逆転の方もいるが自然な生活スタイルとなるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りしている。 髭剃りや化粧水、乳液などには気をつけている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな物をメニューに取り入れ、一緒に楽しみながら食事準備を手伝って頂いている。	利用者の希望を取り入れたメニューを作成し、主たる食材は配達で、それ以外は毎日、利用者と一緒に買物に行き、後片付けまで協力して行っている。利用者個々に朝食時やおやつ時は入れたてコーヒーの香りを楽しみ、ゆっくりくつろいでいる。誕生日の手作りケーキ、時には外食にも行く。職員は介助しながらも、一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックしている。水分量は必要な方のみ個別にチェックし、飲みやすい物を提供するなど工夫している。また、毎月、体重測定を行っている。夜間の補水も水筒やコップにお茶を入れていつでも補水出来る環境としている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を取り入れ、入居者様の口腔状態の把握、改善に取り組んでいる。日常の口腔ケアについては、全員に対して毎食後は実施出来ていない。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に応じた物を使っている。紙パンツとパッドから布パンツとパッドに変更できた方もいる。パッドを使用しながらも、基本的に日中は全員がトイレでの排泄を行っている。	個々の排泄パターンを参考に、表情やしぐさからタイミングを見て声かけ、誘導している。入院した場合は、職員が退院後の排泄状況を見ながらトイレに誘導し、徐々に感覚を取り戻すよう支援している。夜間は、個々の習慣に応じて声かけしたり、ポータブルトイレを居室に置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食べ物などを工夫しながら、自然排便に向けて取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、柔軟に対応してはいるものの、毎日入りたいなどの希望には添うことが出来ていない。バイタルの加減で入浴出来ない事はあるが1対1でのゆったりとした気持ちの良い入浴は提供できている。	入りたい時に入ってもらおうようにしているが、週2～3回の入浴が多く、午前中に入っている。こちらから声かけすることが多いが、無理強いはいらない。好みの入浴剤を入れたり、脱衣所にラジカセを持ち込み歌を歌う人もいる。職員との会話が楽しみな人もおり、個々のペースを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の状態に合わせて安心して休んで頂けるように声かけや寄り添うように関わらせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故を減らす為に内服薬は一包化している。薬情を個人ファイル、ケース記録のファイルに挟むなど目に留まる機会を多くしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様を一律と考えず個別対応をしている。好みの家事に参加出来る様に声をしたり余暇活動に参加していただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、希望者と一緒に近くの公園まで散歩に出掛けたり、食材の買い出しに出かけている。また、外食や洋服の買い物、ドライブ、地域のイベントに参加したりしている。しかし、地域の方と協力しながらという機会は設けられていない。	毎日の食材の買物や日々の散歩は、日課として行っている。地域のサロンや季節行事に誘われ参加したり、希望で近隣の大型商店等におやつや衣類を買いに行っている。桜の季節の他、季節に応じて海にドライブに行くこともあり、気分転換を図っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には持ってもらっていない。 必要な物は立替金にて購入してもらい毎月の請求時に請求している。 ご本人で管理されている方はコンビニなどで買い物をされる事もある。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望があれば個別に対応、支援している。携帯電話を持っている方もいる。また、パートナーが送っている2カ月に一度のご家族への手紙にご本人からの言葉を添えることもある。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居様が落ち着き、安心して過ごせるよう、照明、音の大きさ、温度、湿度などに配慮している。また、地域の情報や施設内のイベントの様子を思い出せるコーナーを設け、良い刺激を感じられるようにしている。	広々としたリビングに、大型のオープンキッチン、暖炉、畳コーナーがある。2階は太い梁が通り吹き抜けとなっている。リビングから続く広いテラスではお茶が楽しめ、1階には花壇がある。複数の食卓テーブル、ソファでは、利用者が思い思いにくつろいでいる。畳コーナーにはこたつが置かれ、利用者が洗濯物を畳んだり、横になることもある。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも個別の空間をいくつか設けるように工夫し、それぞれの方がその時々で自由に落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込む物について、火気以外は制限は設けず、ご本人が安心できるものは、なんでも持ち込んで頂くようにお伝えしている。結果、使い慣れた家具や小物を配置している方もおられる。	ベッド、クローゼット、洗面が常設されている。カーペットを敷いている人や、整理筆筒、テレビ、スタンドを置いている人もいる。自分が作った趣味の人形、家族の写真を飾ったり花を置くなど、思い思いに居心地良く工夫している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、洗濯、掃除、畑作業等出来る事には参加して頂いている。 見ればわかるように居室に表札をつけたりトイレやスイッチに表示をつけている。		